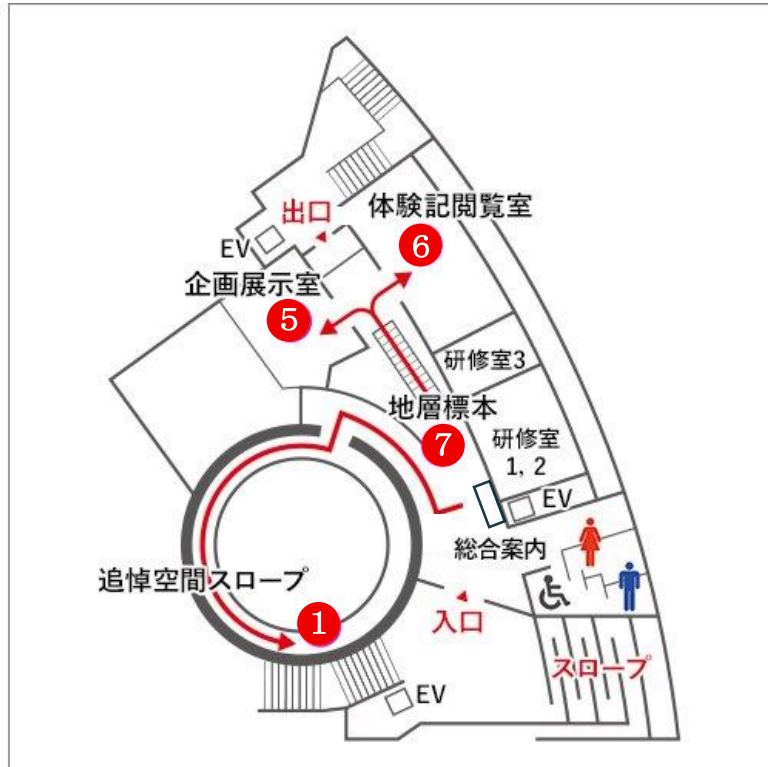


展示情報システム以外の改善を要する又は改善が望ましいゾーニング、動線計画等の課題

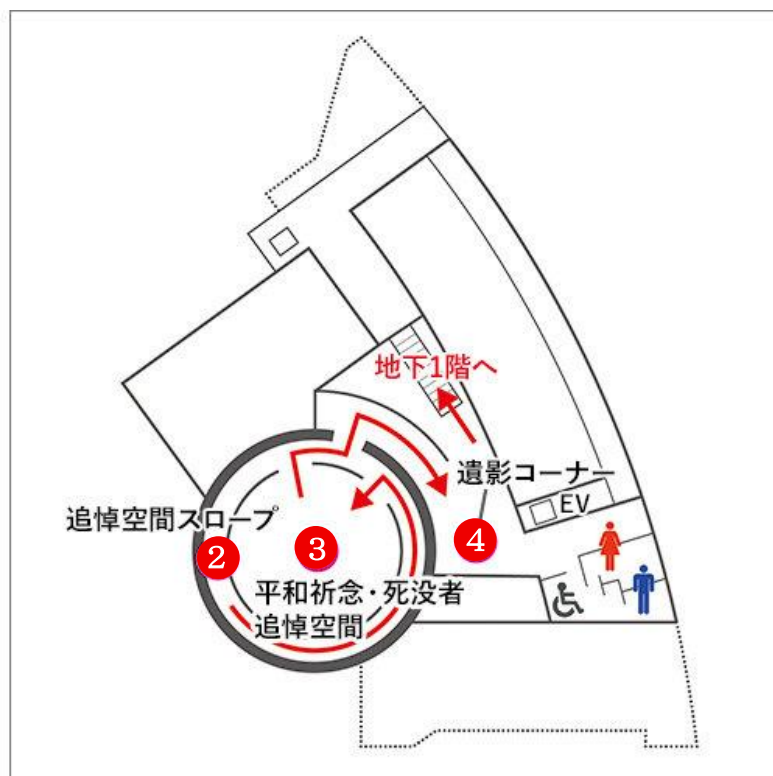
1 広島祈念館

(1) 祈念館の標準的な動線

■ 地下1階



■ 地下2階



(2) 課題

広島祈念館の特徴は、祈念館を設置する際に取りまとめられた「原爆死没者追悼平和祈念館開設準備検討会最終報告」にあるとおり、「被爆関連資料・情報の収集及び利用」であり、具体的には「被爆体験の収集・整理・継承」である。

平成7年度に厚生労働省が大規模に収集した被爆体験記について、平成9年度から整理に着手し、その後も積極的に被爆体験記等を収集・整理した結果、現在15万編を超える被爆体験記と1500本を超える被爆者証言ビデオを収蔵し、これらは、「体験記閲覧室」において公開している。

つまり、広島祈念館の来館者に対して館として提供すべきメインコンテンツは、被爆体験記と証言ビデオであるが、残念ながら体験記閲覧室の利用者は多くない。

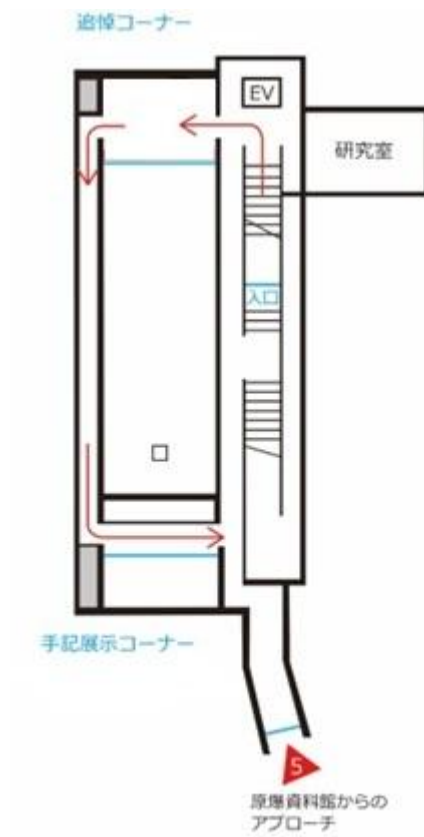
その要因としては、館内各コーナーの展示が独立して完結し、連続性が乏しいことに加え、体験記閲覧室への自然な動線が描けていないことが大きいと考えられる。

そこで、今後一段と進化するであろうAI技術も使いながら、来館者目線で、体験記閲覧室へ自然と足を運べるような工夫が必要である。

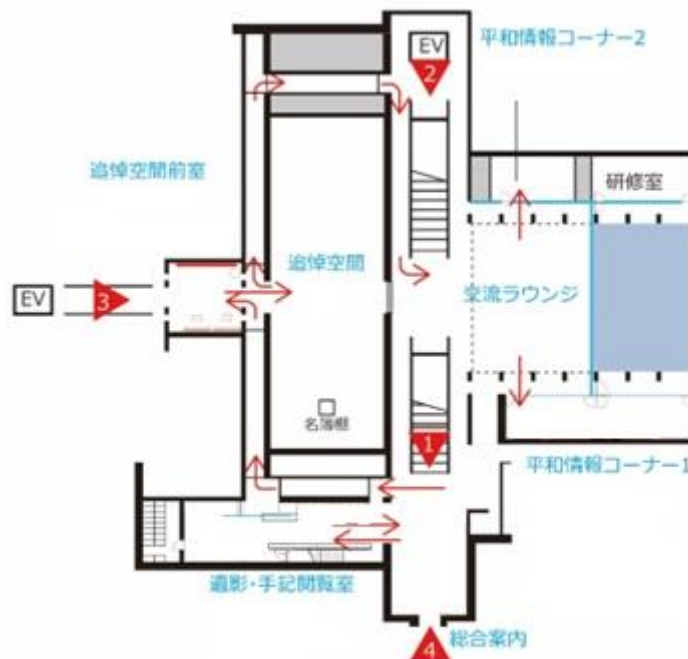
2 長崎祈念館

(1) 祈念館の標準的な動線

地下1階



地下2階



(2) 課題

長崎祈念館の建設理念は、「原爆死没者の永続的な追悼の場」「被爆関連資料・情報の収集整理及び継承」「原爆被害に関する医学を中心とした国際協力・交流」である。

このうち、「被爆関連資料・情報の収集整理及び継承」については、厚生労働省が大規模に収集した被爆体験記をはじめ、被爆体験記等を収集・整理した結果、現在約 12 万編の被爆体験記、約 2 千人分の被爆者証言ビデオや証言音声記録を収蔵し、「遺影・手記閲覧室」において公開している。

また、「原爆被害に関する医学を中心とした国際協力・交流」については、「平和情報コーナー1」において、原爆被爆者及び放射線被爆者に対する医療活動の紹介や海外原爆展の実績など、国際協力・交流に関する情報提供・発信を行っている。

このように長崎祈念館の来館者に提供している主たるコンテンツは、被爆体験記と証言ビデオ及び音声記録、並びに国際協力・交流に関する資料であるが、現状として、「遺影・手記閲覧室」と「平和情報コーナー1」の利用者は多くない。

その要因としては、「遺影・手記閲覧室」及び「平和情報コーナー1」へ誘導する動線・サイン計画が不十分であることが考えられる。

このため、進化が著しいデジタル技術も使いながら、来館者が「遺影・手記閲覧室」及び「平和情報コーナー1」へ自然と足を運べるような工夫が必要である。